

No.22 褥瘡発生対策についての取り組みについて



P（PLAN：課題設定）

- ・全国褥瘡学会による全国調査で報告された推定褥瘡発生率（0.64％）と比較すると、当院の褥瘡発生率は高い状況でした
- ・院内で褥瘡が発生した患者のうち、日常生活自立度Cの患者が79％を占めており、リスクの過小評価やケア介入の遅れが発生要因であると考えられました

D（DO：実施）

- ・データ分析結果をもとに、看護管理者を対象とした研修会を継続的に実施しました
- ・院内認定実践指導者ナースPLN（褥瘡ケア）取得者を「強化チーム」と位置付け、4病棟への介入およびリンクナースへの支援を実施しました
- ・「出前勉強会」および「出前監査」を継続して実施するとともに、褥瘡に関する看護計画の監査を実施しました

C（CHECK：評価）

- ・看護管理者によるリンクナースへの支援が継続・定着しました
- ・PLNが介入した4病棟すべてにおいて、褥瘡発生率の低下が認められました
- ・リンクナースの意識向上および活動の活性化につながりました
- ・院内の褥瘡発生率は全国平均レベルまで改善しました
- ・一方で、院内発生した褥瘡のうち、日常生活自立度Cの患者が占める割合は78％と依然として高く、大きな改善は認められませんでした

A（ACT：改善方針）

- ・日常生活自立度Cの患者に褥瘡が多く発生している要因として、ケア方法に伴う皮膚へのずれ力（シア）の影響が大きいことが明らかとなりました
- ・今後は、患者一人ひとりの個別性や生活者としての視点を踏まえた褥瘡予防対策を推進し、より効果的なケアの実践に取り組んでまいります